２０２０年
２７１号
１２月２３日（水）

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
（越労連内）
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

『クリエーション大会』
コロナ「第３波」の中　三密を避け屋外で

コロナの第３波感染が毎日のニュースで伝えられる中、越谷支部では屋外でコロナに負けないで皆で集まれる、レクリエーション大会を12月８日（火）に22名の参加で実施しました。

幸い越谷支部では毎週火曜日にグラウンドゴルフクラブが越労連事務所前の南越谷グラウンドを借りています。

クラブが終わった後、役員が３つのグループに分けてレクリエーションを企画しました（それぞれ11時から１時間を予定）。第一グループはクラブ活動をそのまま利用した４ホールほどの簡易版の練習用のグラウンドゴルフです。これには11名が参加しました。一組４名ほどで４ラウンド楽しみました。３人の方がホールインワンを出しました。クラブ員の方々の初めての人への指導ご苦労様でした。

グラウンドゴルフを特にしたくはないが、体を動かしたい人のために第二グループとしてウォーキングのコース１・６kmと２・４kmの二つを用意しました。時間は歩く速さにもよりますが30～60分ほどで、これには６名が参加しました。

最後のグループは体調があまりよくなく、体を動かすのは嫌だが、家から出て皆で集まっておしゃべりをしたい人達のための「おしゃべり会」です。

この時期ですから寒い事も考えられたので、ポットに熱いお湯を用意、紙コップとティーバッグで暖かいお茶を片手の「お茶べり会」にするつもりでしたが、この日は風ひとつない小春日和、用意したお茶も不要でおしゃべりがはずみました。

初めての企画で何をしゃべるかと心配しましたが、「年金者組合の行事に参加するのが楽しみ。芋煮会など楽しく大好き、今日も具合の悪い主人はショートステイに預けてきました。」とご自分の仕事や終戦後の疎開の話、ご主人の体調の話、日常生活の話等々。参加者は３人でしたが、これが倍の人数だったらどういう話が聞けるのか楽しみです。

次に全員参加の昼食会です。会費は５００円でひとりおむすび２個とペットボトル、おつまみ、みかんをいただきました。そしてこの間、吉田支部長のお友達の鈴木欽司さんが手品を披露してくれました。

最後はじゃんけん大会で差入れの賞品を分け合いました。

（五十嵐、吉田（健）、山本）

点睛
窓口負担増（２倍化）は、命の危険に直結

厚生労働省は11／19日、75歳以上の後期高齢者が医療機関で支払う窓口負担について、最小で約200万人、最大605万人を現行の原則１割から２割に引き上げるなどとした、患者負担増の複数案を社会保障審議会の部会に示しました。

１割負担の人で「一定所得以上」を２割にするとした政府方針に基づき、厚労省は２割負担の対象として、以下５案（全て単身世帯）を提示。

①年収240万円以上の約200万人（13％）
②年収220万円以上の約285万人（18％）
③年収200万円以上の約370万人（23％）
④年収170万円以上の約520万人（31％）
⑤年収155万円以上の約605万人（37％）

尚、年収383万円以上の約130万人（７％）は、『現役並み』だとして、すでに３割負担となっている所得層。

◆政府・与党は協議の結果、案③「年収200万円以上の約370万人（23％）」の方針を決定。どの「案」も、数百万人規模で高齢者の医療費負担を２倍に引き上げるという事に、変わりはありません。

２割負担が導入されれば、病気やケガをするリスクの高い75歳以上の人が、経済的理由で受診控えが広がり、病状を悪化させ命の危険に直結することになりかねません。疾病は早期の発見・治療が何より重要です。

◆菅政権は今回の負担増は「現役世代の負担を減らす」ことを口実にしますが、かつて老人医療費で45％を占めていた国庫負担割合を35％に引き下げ、現役世代の保険料負担に肩代わりさせた制度改悪が問題の根本にあります。この仕組みを改め、国庫負担を引き上げることが必要です。「公助」＝国の責任を果たさず、世代間で費用負担をめぐって対立させ、高齢者に「自助」の負担増を迫る、こんな冷たい政治をこれ以上続けさせてはなりません。

◆『２割負担の導入は撤回』と世論と運動を強めよう！

（森　秀夫）

『 新春の集い＆誕生会』　（詳細は次号で）
２０２１年２月２日（火）予定　【南越谷グラウンドにて】　※雨天は９日（火）